

2020年7月10日

各位

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

## **精密機器セクター初となるグリーンボンド 「セイコーエプソングリーンボンド」の引受けについて**

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社（取締役社長 荒木 三郎、以下当社）は、このたび、セイコーエプソン株式会社（以下、セイコーエプソン）が精密機器セクターとして初めて発行するグリーンボンド<sup>(1)</sup>「セイコーエプソングリーンボンド」（3年債100億円、5年債400億円、10年債200億円、総額700億円）の引受けにおいて共同主幹事を務め、本日、同グリーンボンドの条件が決定されましたことをお知らせします。

セイコーエプソンは、同社のロードマップである「環境ビジョン2050」を基に2025年に向けて掲げる長期ビジョン「Epson 25」の実現に向け、「省・小・精の技術」を基盤に持続的な社会を作り上げることによって、「なくてはならない会社」として社会への貢献を果たすことを目指しています。

本グリーンボンドは、適格性と透明性の確保および投資家への訴求力向上のため、グリーンボンド原則2018（ICMA）および環境省グリーンボンドガイドライン2017年版に則したフレームワークを策定し、世界的なESGにおける第三者評価機関であるサステナリティクスより適合性に関するセカンドパーティ・オピニオンを、R&IよりR&Iグリーンボンドアセスメントの最上位評価である「GA1」をそれぞれ取得しています。また、環境省の2019年度グリーンボンド発行促進体制整備支援事業の補助金交付対象となっております。

当社は、金融機関として果たすべき社会的使命を自覚し、持続可能な社会の実現に貢献するための取組みを積極的に推進しており、環境分野においてもグリーンボンドの引受けをはじめ、炭素クレジットやクリーンエネルギービジネスにおけるコンサルティングサービスの提供、社内の省エネ・省資源施策等を実施しています。

2006年に国連責任投資原則（PRI: Principles for Responsible Investment）が制定されて以来、世界のESG投資<sup>(2)</sup>が拡大していることを受けて、資金使途を環境対策事業とするグリーンボンドや社会貢献事業とするソーシャルボンド、両方の特性を有するサステナビリティボンド等の発行は増加傾向にあります。引き続き、当社は、企業・経済の成長と社会・環境との両立の観点から、ESGをテーマとした債券の引受けを一層推進するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

(セイコーエプソングリーンボンドの概要)

発行会社：	セイコーエプソン株式会社		
債券名：	第20回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	第21回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	第22回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)
取得格付：	A (R&I)		
年限：	3年債 (2023年7月14日償還)	5年債 (2025年7月16日償還)	10年債 (2030年7月16日償還)
発行額：	100億円	400億円	200億円
利率：	0.02%/年	0.23%/年	0.45%/年
発行日：	2020年7月16日		
主幹事：	みずほ証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券		
資金使途対象：	広丘事業所(9号館)の新棟新設費用、広丘事業所(イノベーションセンターB棟)の新棟新プロジェクト 設費用、フィリピン製造子会社の工場増設費用、オフィス向け高速ラインインクジェット複合機の研究開発費用及び生産設備、商業・産業プリンターの研究開発費用及び生産設備、インクジェットプリンター、IJヘッド応用の研究開発費用及び生産設備、Paper Lab及びドライファイバーテクノロジー応用の研究開発費用及び生産設備、再生可能エネルギーの購入費用		

- (1) 環境事業に要する資金を調達するために発行する債券。

セイコーエプソングリーンボンドは、国際資本市場協会 (International Capital Market Association : ICMA) が定義する「グリーンボンド」の特性に従った債券である旨、第三者評価機関による評価を取得している。

- (2) ESGは、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の英語の頭文字を合わせた言葉であり、ESG投資はこれらの要素に配慮している企業を重視・選別して行う投資のこと。